



みみ

耳よい

メール

国立病院機構 相模原病院 広報誌
令和7年3月21日号
発行：国立病院機構 相模原病院
発行責任者：安達 献
住所：相模原市南区桜台18-1
電話：042-742-8311 (代表)
F A X：042-742-5314

第92号



2023年2月27日 曾我梅林（小田原市）にて職員撮影

第92号 目次

- ◆ロボット支援手術の導入
および手術室増設整備工事について…… 1
- ◆「マイナ保険証」の動向と当院の対応について… 3
- ◆電子処方せんとは …………… 5
- ◆耳よりの栄養だより …………… 6
- ◆Q&Aコーナー コラム放射線科 …………… 7
- 連載** 近隣保険薬局紹介コーナー
「ポプラ薬局」様 …………… 8
- 連載** 近隣協力医療施設の紹介コーナー
「かえでの風さがみ」様 …………… 9



SAGAMIHARA
NATIONAL
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの
人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づ
き親切で心のこもった医
療を提供します。

ロボット支援手術の導入および手術室増設整備工事について

外科 手術部長 旗手 和彦

本邦におけるロボット支援下手術は、2012年4月に前立腺癌手術が最初に保険適応となりました。その後、婦人科、消化器外科、呼吸器外科などが徐々に適応拡大となり、当院においてもロボット支援下手術の導入を切望し計画を練ってきました。しかし、コロナウイルスの蔓延による影響もあり、なかなか実現することが困難な状況でありました。

ロボット支援下手術を導入した病院では、導入後に全体の手術件数が減少することがあり、多くの病院が課題としています。そこで、近い将来ロボット支援下手術を導入することを念頭におきながら、総手術件数の増加の影響による手術室数不足の弊害を改善し、全手術件数を維持および増加させることを目的として、2022年4月にロボット手術ワーキンググループおよび手術室増設ワーキンググループを発足しました。2023年1月31日、国立病院機構本部よりロボット支援下手術導入の承認を得て、4月3日にINTUTIVE社の最新機種であるDAVINCI Xiの導入が決定しました。また、並行して手術室内で行う全身麻酔下手術件数を確保することを目的として、局所麻酔手術を手術室の外で施行するために、創傷治療センターを救急個室外来の一角に開設する計画を進め、2023年6月に開設しました。

ロボット支援下手術が導入された際に、滞りなく運用を進めていくために、手術室内の医療安全面のさらなる環境整備を行ないました。まずロボット支援下手術の導入に先駆けて2022

年4月より全手術症例を対象に、多職種による手術部職員がオカレンスレポートの提出を行うシステムを構築しました。診療部および手術部職員の献身的な協力により、手術部内におけるオカレンスレポートの運用は順調に浸透しました。その結果、病院全体にインシデント・アクシデントに対する意識改善を広める結果につながったと考えています。

2023年11月にDAVINCI Xiが納入されました。外科系医師、麻酔科医師、手術室看護師、臨床工学士の多職種でチームを編成し、他病院の見学やシミュレーションを繰り返し行い入念に準備を進めました。そして、2024年1月より泌尿器科の前立腺癌手術を皮切りに、婦人科、外科の3診療科が同時にロボット支援下手術を開始することができました。ロボット支援下手術を新規導入した病院では、複数の診療科が同時に導入できた病院は少ないと聞いています。これはロボット支援下手術に携わった多職種の努力の賜物であり、関係者の皆様に感謝しております。また、ロボット支援下手術は広い面積を有する手術室が必要であるため、当院の最も広い手術室でロボット支援下手術を開始しました。しかし、整形外科領域の手術においても広い手術室が必要な術式もあり、整形外科医師のご協力を得て順調にロボット支援下手術を施行することができました。また、ロボット支援下手術を進めながら、総手術件数の維持・増加が必須の案件であることを外科診療科全体で共有しました。その結果、2023年度の総手術件数は前年

度比110%の増加となり、2024年度も同様に前年度比110%のペースで手術を施行しています。

これも、ロボット支援下手術の携わっていない外科系診療科のご協力があったからこそであり、心より感謝を申し上げます。



このような状況下でロボット支援下手術の開始となったため、手術部としては新手術室の増設が急務でありました。2023年3月に国立病院機構本部より手術室増設の同意を取得し、入札後の2024年8月1日より手術室増築工事が開始となりました。工事が開始となってから多少の紆余曲折がありましたが、病院関係者、工事業社の方々の懸命な努力の結果、2024年12月17日完成となりました。その後保健所による使用許可を経て2025年1月8日より新手術室の使用を開始しました。

2025年1月より自由診療によるロボット支援下ヘルニア修復術（外科）が導入され、2月より呼吸器外科、泌尿器科による腎・尿管手術が導入予定となっています。

近い将来、外科系手術はロボット支援下手術が中心となる世の中が訪れることは間違いありません。地域に貢献できる病院を目指して、更なる手術部の発展に尽力していきたいと考えております。



「マイナ保険証」の動向と当院の対応について

事務部 医事専門職 金井 健吾

令和6年12月2日より従来の健康保険証の新規発行が停止となり、マイナ保険証への移行の流れは、今後これまで以上に進んでいくものと考えられます。医療機関や薬局においても、令和5年4月からマイナ保険証を用いたオンライン資格確認への対応が原則義務化され、令和6年12月下旬時点での参加率は、病院98.8%、医科クリニック92.0%、薬局97.0%となっており、利用環境も広く整備されてきたと言えます。

「マイナ保険証」とは、健康保険証と紐づけられたマイナンバーカードの通称であり、被保険者の資格証明という意味では従来の保険証と変わりませんが、オンラインで資格を照会する仕組みを活かした新しい取組みについては、昨今、頻繁に耳にするのとおりです。

オンライン資格確認と情報閲覧の概要（医療機関等での利用）



マイナ保険証に対応した医療機関を受診すると、医師は患者さんの同意に基づいて、他の病院・クリニックも含めた過去の診療情報、薬剤情報などを閲覧することができます。それらの情報を踏まえて診療を行うことは、より適切で効率の良い医療の提供につながり、事実に基づいた薬剤の重複投与や飲み合わせのチェックがなされれば、一層の安全・安心につながります。（経済的なメリットもあり得るものです）

マイナ保険証の読み取り装置について（顔認証付カードリーダー）



- 当院窓口では、左写真の機器を複数台設置しており、マイナ保険証の読み取り・認証、情報取得の同意選択等をスムーズにご案内します。
- また、マイナ保険証の利用開始登録（カードと健康保険証の紐づけ）も簡単操作で可能です。ご希望の方はマイナンバーカードをご持参のうえ窓口にてお申し出ください。

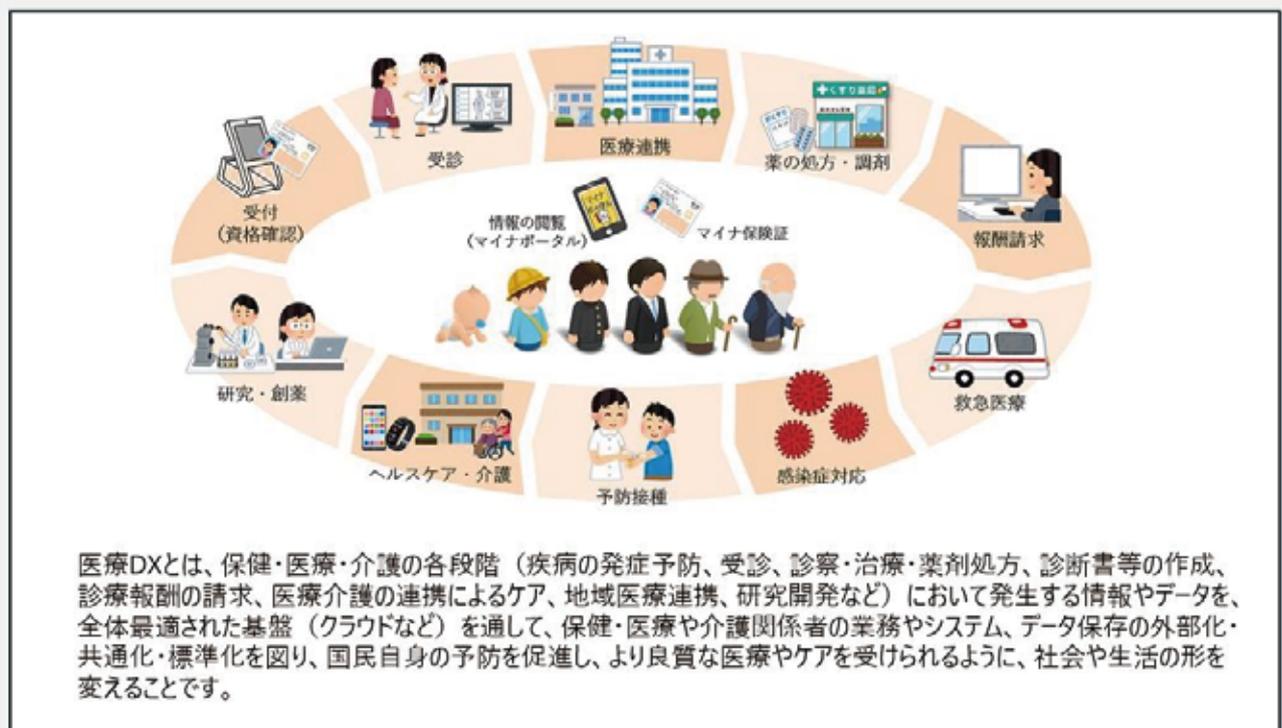
一方で、医師が閲覧できる情報は限られた一部です。情報の多くは見られるようになるまでに1か月ほどのタイムラグがあるうえ、例えば、病名・病歴や他院での経緯・詳細などはそもそも分からない仕組みです。有益な機能ではありますが、あくまでも付加的なものですので、診察時の医師とのコミュニケーションの重要性は今後も変わらないものです。また、同様の理由からお薬手帳についても当面は携行いただく必要があります。

なお、マイナ保険証への移行にあわせて、当院では来院時（診察前）の保険確認をお願いしております。昨年、国の通知により受診都度の保険資格確認のルールが改めて示されたことありますが、前述した医師による情報閲覧が、同意取得（つまり保険確認時）から24時間に限って可能であることが大きな理由です。閲覧できた情報も1日すれば消えてしまうことから、次の受診時には改めて同意をいただく必要があるのです。

これまでなかった（本来のルールではあったのですが）毎回の保険確認について、しばしば面倒だとなご意見をいただくこともあります。しかし、国の推し進める医療DXの動向の中で、以降も新たな機能や取組みは益々増えてくるものと考えられ、その基盤がマイナ保険証によるオンライン照会の仕組みとなることは、末尾の図などからも大いに予想されることです。

当院におけるこれまでの運用の見直しが、ご来院いただく皆さまのご理解・ご協力により大きな混乱なく進められていることについて、心より感謝を申し上げます。私たち医事部門としましては、この過渡期の後にも、皆さまの受ける医療がより価値のあるものとなるよう努めさせていただきますので、今後とも当院をどうぞよろしくお願いいたします。

医療DXの概要（厚生労働省：医療DX令和ビジョン2030 より引用）



電子処方せんとは

薬剤部 副薬剤部長 川邊 元子

◆電子処方せんとは何ですか

電子処方せんとは、これまで紙で発行していた処方せんを電子化したものです。

複数の医療機関や薬局にまたがるお薬の情報を共有することができるようになります。飲み合わせの悪い薬を服用していないかなどが確認できるようになり、今まで以上に安心して薬を受け取ることができるようになります。

◆電子処方せんのメリットは何ですか。

今までは、服用している（していた）お薬は、実際に処方した医療機関か調剤した薬局、または、患者さん自身（お薬手帳）から情報を得ることでしかわかりませんでした。しかし、電子処方せんを用いると、システム上で正確に確認できるようになり、より安心安全な医療につなげることができます。

患者さんにとっても、口頭での伝え漏れの心配がなくなり、お薬手帳を忘れたり記入していない薬があったりした場合にも安心です。さらに患者さんの薬局での待ち時間の短縮にもつながることが期待できます。

◆電子処方せんはセキュリティ面が不安です。

電子処方せんを管理しているシステムと医療機関や薬局間の電子処方せんの送受信は、安全なネットワークを介して行われ、電子処方せんのデータは適切に管理されるため、安心してご利用いただけます。また、医療機関や薬局でお薬の情報を確認するためには、本人の同意がある場合に限られます。

患者さんへ

- ご自分が利用されている薬局が、電子処方せんに対応しているか確認しておきましょう。
- 電子処方せんは、電子処方せんに対応していない薬局では受付ができません（お薬を受け取ることができません）。
- 紙処方せんは、すべての薬局で受付ができます。

<電子処方せん／紙処方せんの取り扱い>		相模原病院	
		電子処方せん	紙処方せん
保険薬局 (院外薬局)	(電子処方せんの) 受付ができる	○	○
	(電子処方せんの) 受付ができない	×	○

※現在、当院では厚生労働省が推進する「電子処方せん」を発行するための準備を進めています。電子処方せんを活用したいとお考えの患者さんには大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

耳よりな栄養だより

第2回：春の栄養と健康 - 新たなスタートに備える



栄養管理室長 藤田 かほる

みなさま、こんにちは。管理栄養士の藤田です。
春は新しい始まりの季節。心身をリフレッシュし、健康的な生活を再スタートさせる絶好のタイミングです。植物が芽吹き、自然が再び活気づくように、私たちの身体もこの季節に新陳代謝が活発になります。春の身体に必要な栄養素をしっかりと摂り、心と身体のバランスを整えていきましょう。

1. 春の身体に必要な栄養素

春は身体が冬の間蓄えたエネルギーや栄養をリセットし、代謝が活発になる季節です。この時期に必要な栄養素としては、ビタミンB群、ビタミンC、そしてミネラルが挙げられます。
****ビタミンB群****は、エネルギー代謝をサポートし、疲労回復に役立ちます。特に春は気温の変化が激しく、身体が環境に順応するために多くのエネルギーを消費します。玄米や大豆、肉類、魚介類などの食品に多く含まれています。これらの食品を日常的に摂取することで、春の疲労を軽減できるとされています。

****ビタミンC****は、免疫力を高め、冬の間弱まった免疫システムをサポートします。新鮮な果物や野菜に多く含まれており、例えば、いちごやピーマン、ブロッコリーなどが良い選択肢です。季節ごとの新鮮な食材を積極的に取り入れることが大切で、特に旬の野菜や果物を摂ることで、自然な形で必要な栄養素を得ることができます。

****ミネラル****の鉄分や亜鉛は、疲労感や倦怠感を軽減します。貝類や海藻、ほうれん草などを積極的に摂取しましょう。

2. 春の食生活のポイント

春は、食生活を見直し、バランスの取れた食事を心がけることが大切です。冬の間蓄えた脂肪や老廃物をデトックスするために、軽めで

消化に良い食事が効果的です。玄米や雑穀を使ったシンプルな和食はいかがでしょう。これにより、体内の老廃物をスムーズに排出し、代謝をサポートすることができます。

さらに、水分補給も重要です。体内の水分バランスを整えるために、日々の水分摂取を意識することが推奨されています。温かいハーブティーや白湯などを取り入れ、冷えた身体を内側から温め、代謝を促進しましょう。

3. 心の健康も忘れずに

春は新しい挑戦や環境の変化が多い季節でもあり、ストレスを感じやすい時期です。栄養学的には、****マグネシウム****や****オメガ3系脂肪酸****が心の健康をサポートするとされています。アーモンドやカシューナッツ、サバやイワシなどの魚を積極的に摂取することで、ストレス耐性を高めていきましょう。これにより、ストレスフルな状況でも心を落ち着かせ、穏やかな春を迎えることができます。

心の健康を保つためには、リラクゼーションの時間を大切にすることが必要です。例えば、瞑想や軽い運動、自然の中で過ごす時間を増やすことで、心のバランスを保つことができます。心と身体は密接に関連しているため、両方をケアすることが重要です。

●次回予告：夏の栄養と健康

今回の連載では、夏の暑さに負けないための栄養と健康管理についてお話しします。夏バテを予防するための食材や、効率的な水分補給の方法、そして体をクールダウンさせる食生活のポイントなど、夏を快適に過ごすためのヒントをお届けします。お楽しみに！

～*～「食」は 人を良くする

「食事」は 人を良くする事～*～

— Q&Aコーナ — コラム放射線科

放射線取扱主任者 塩森 智文

**Q：放射線検査の一般撮影では、なにを診ているのですか？**

Ans: 一般撮影はエックス線を用いて身体の診たい場所を二次元的に写し出しています。エックス線が照射され体内に入ると、透過して体外に出てくるものと、体内で吸収されるものとに分かれ、エックス線が透過した部分は黒、吸収された部分は白く表されます。その透過・吸収の差を白から黒の濃淡の変化で骨や内臓といった内部構造を映し出しているのがエックス線写真です。

手足や背骨等の骨の写真では、骨の形状把握や骨折の有無、その度合いから治療方針を決定したり、撮影した写真を基に手術のための計画に用いたりします。胸部写真では、肺炎や結核、気胸などの肺疾患の評価から、血管や気管支の形態評価など多岐にわたり、心疾患などの多くの病態の鑑別に不可欠な検査となります。また、腹部写真では、胃や腸管内のガスや便のたまり具合、胆石や尿路の結石、腹水の有無などの疾患のほか、腰椎や骨盤の変形などがわかることもあります。検査時には、診療放射線技師から様々な決められた体位を取る事をお願いしています。診たい部位を明確に写し出すためにご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願い致します。

**Q：一般撮影で同じ部位を何回も撮影することがありますが大丈夫でしょうか？**

Ans: ご心配ありません。自然界にも放射線を出しているものが数多くあります。

宇宙にも大地にも自然放射線と言う名前が存在しており、私たちは毎日の食事からも僅かですが放射線を摂取し、被ばくしています。胸部エックス線写真1枚の被ばく線量は、自然放射線1年分の被ばく線量の約40分の1程度とごく僅かです。また、胸部エックス線撮影1枚の線量は、東京からニューヨークまでを飛行機で往復した場合の自然放射線からの被ばく線量と同程度とされています。同様に、エックス線撮影で使用する放射線量は非常に少なく、健康上のご心配は必要ありません。

相模原病院では『放射線安全管理委員会』を設置、その下で診療放射線技師が中心となり、常に適切な線量管理を行い種々の検査を施行しております。安心して検査をお受けください。



連載

近隣保険薬局紹介コーナー

ポプラ調剤薬局 様



こんにちは。ポプラ調剤薬局です。2015年12月に株式会社ヤマグチ薬局の傘下となり、隣のヤマグチ薬局南台店とはグループ会社です。

相模原病院のバスロータリーの向かいに位置し、ピンク色の看板が目印です。応需する処方せんは相模原病院が多数を占めますが、その他の医療機関の処方せんも受け付けています。

昨今報道されている通り、流通不良のお薬も多数ありますがヤマグチ薬局は神奈川・東京を中心に、現在100店舗ほど展開しております。その強みを生かし、手配可能な薬であれば取り寄せや後日配送などで対応させていただきますのでご相談ください。

また駐車場も2台ご用意があります。隣のタイムズとも提携しており、当薬局ご利用の方には2時間の無料券を差し上げています。また入口はスロープになっており、待合室も広くとってあります。薬の受け渡しカウンターでも座ったままの対応が可能です。車いすの方にも安心してご利用いただける薬局となっております。お薬の提供だけでなく、薬に対するちょっとした疑問や相談など、皆様の健康に少しでも貢献できればと考えております。ぜひかかりつけ薬局としてご利用いただければと思います。

よろしくお祈いします。



【ポプラ調剤薬局】

営業時間

月～金：8:30～17:30

定休日：土日祝

TEL：042-745-6997

FAX：042-745-6971

住所：〒252-0314

相模原市南区南台6-8-20

訂正)第91号に掲載したかながわ調剤薬局の営業時間に誤りがありました。

月～金：(誤)8:30～7:30



(正)8:30～17:30

連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



在宅療養支援クリニック
かえでの風 さがみ
院長
服部 すみれ 先生

はじめまして。

在宅診療支援クリニック かえでの風さがみ
院長の服部すみれ と申します。

当クリニックは、在宅診療を専門とするクリニックです。がんなどの終末期で、病院での治療が終了し、最期を在宅で過ごしたい方や、心臓病などの慢性疾患があって通院が必要だけれど、体力的に病院やクリニックまで通院することが困難な方、あるいは病院治療と並行して在宅で過ごすにあたり、夜間休日などでも、いつでも連絡可能な相談先を確保したいなど、さまざまな患者さまに対応しています。住み慣れたお家で、いい時間を過ごしたい、というご本人とご家族のお気持ちがあれば、どなたでも大丈夫です。お気軽にご相談ください。

在宅で過ごすことは、ご本人の安心、喜びにつながる一方、ご家族には負担になってしまう側面もあります。病院や、訪問看護、訪問介護と連携を取りながら、ご家族の負担を軽減しつつ、皆さまが望む形で生活を送れるよう、精一杯サポートしてまいります。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。



対象となる方	要支援・要介護認定を受けている
	在宅での療養を希望されている
	認知症の方
	介護施設やサービス付き高齢者住宅にお住まいで、通院困難な方
	がんなどで緩和医療が必要な方
	一人での通院が難しい方
	最期までご自宅で過ごしたい方
胃ろうやIVH、点滴、在宅酸素療法などの医療管理が必要な方	



在宅診療支援クリニック

— かえでの風さがみ —

診療科目：総合内科

電話：042-701-5022

FAX：042-701-5660

HP: <https://kaedenokaze-med.jp/>

住所：〒252-0328

相模原市南区麻溝台1丁目2-15

北里ビル102号

アクセス:北里大学病院前